（昭和五年三月廿一日 第三種郵便物認可）　【日刊】　昭和九年六月七日　新いわき　【木曜日】　第二千百九十六號　（一）

六月六日　夕刊

休日　日曜　祭日
一ヶ月　二十五錢
郵送十五錢　一部二錢
廣告料　一行四十錢
場所指定　貳拾錢增
發行兼編輯印刷人　半谷政喜
發行所　福島縣平町大町二三
新いわき新聞社

上と下のながめに苦心する高麗橋

竣功後に於ける平町の一美觀

本月中旬から着工見込み

平町裁判所前を飾る八幡小路から六間門に移る陸橋高麗橋の架け換えは既報したが同工事に關して明七日午後一時土木委員會を開かれる新橋の設計は現在の位置を南に變へて八幡小路通りより直通する橋の延長四十二米（現在三十六米八〇）巾員五米五〇（現在三米六〇）で高さ基礎より三十三尺（路面胡摩澤通より三十尺）に達し現在よりも約十尺高くなるもので下と上から見られる橋のため見事な仕上げに頭をしぼつてゐる着工は本月中旬頃から總鐵筋コンクリートの甲鋼には親柱に二個づゝの照明燈都八個のそれが燈きれるなど來る八月末の豫定である竣功後は平町の一美觀に唄はれるであらうと

資力調査を精細に

平町本年の特戸割

俸給報告の嘘こ鐵道員の恩典

これ等には適當の見立割

平町では特別戸數割の賦課に對して目下稅務關係全員を上げて原案作製中であるが町會の附議決定は來る二十五日以後になるらしく本年は各個人の資力調査等に對し一層精細なる調査に盡した結果磐城炭礦發電所從事員並びに同礦、古河、入山炭礦等の通勤者約六十名の俸給々料報告に正しからざるもの及び鐵道關係職員の官舍住ひには水道料の鐵道全給、電燈料の半額給與その他日用品の安價供給等一般町民とは比較にならぬ大なる恩典を受けてゐるので之れ等に對する參酌を誤らず適當なる見立割を課する模樣であるから前年に比して七十錢を增加する一戸平均額は下產階級に大した餘波があるまいと云はれてゐる

流石は農家の仕付時

肥料の到着四百卅噸

平驛に於ける五月の貨物動態

昨年より三百二十六圓增

平驛去る五月中の貨物取扱高は到着一萬三千五百二十六噸（前四月一二三六二トン）發送五千八百三十三噸（四月五九九〇トン）で此の收入七千五百八圓に達したが前月に比較せば到着では千二百六十二噸を增加せるも發送に於て百五十七噸を減じ收入に於て千八十七圓を減少した更に之れを前年に同期に比すれば三百六十二圓を增加してゐる原因は炭礦景氣による磐炭發電所の所用炭を增すアース返送の增加で此の特殊的なものを除けば景氣は昨年に較べて大差なしと云ふ現狀に見られてゐる尙ほ當月に於ける發送到着の重なる品目を上ぐれば左記の如くである

發送木炭一一三　木材一〇三　鐵及び鋼二一一　鹽一〇五　鐵製品一〇七◇到着果物一七一　木材五八一　石炭九〇四四　石油類一三一　鐵及鋼一二六　鹽三〇〇　砂糖一六一　肥料人造二〇六　大豆粕一一七　其他一〇七　鐵製品二〇五

平町木炭相場

石城地方の木炭相場は東都市場の安値向に拘はらず農繁期の生產減と養蚕の需要增で逆强含みを呈してゐるが平町の現在相場は左記の如くである

檜割四貫俵七十七八錢　雜割同七十錢乃至七十二錢　雜ザク同六十一、二錢　栗（蒸竈用）同五十四、五錢

常識講座

オルガナイザとは組織部員のことで、工場や農村に派遣され黨や組合の組織に當るものを指して云ふ、共產黨などに用えられる此の名稱人の如き云ふまでもなく其の意味のもの、

檢査規則の改正で

平支所の檢査員會

他府縣より一ど足お先の新法

今六月一日から實施する

平町木炭檢査支所では管內濱三郡駐在の木炭檢査員に對し左記に於て新檢査法實施に當り夫々指示協議を打合されたが右は木炭業界に於て全國的に騷がれてゐる規格統一が顏る復雜多枝に亘るため其の單純化を唱ひられてゐるものに先き立ち縣營檢査實施以來の經驗に鑑み昨年十月頃から調査研究の結果成案を得て主務省に認可申請中であつたものが去る五月認可されて愈よ本六月一日より改正された檢査規則を實施されることになつたものであるが新檢査によれば名稱が非常に減じて黑炭のみに於ても柳、檜、雜を合せて十五口減少したと

檢査員會（六月二日原町で相馬郡全部　三日双葉郡浪江町で同郡北　四日富岡町で同郡南　五日平町で石城郡一圓）（以上）

中等校の野球大會

來月石城郡に於て

縣下中等學校の野球大會は本年石城郡に於て開催することに決し期日及び場所に關して打合はれてゐたが同會の出場選手は二十ヶ校から約三百名を算する筈で一回戰の第一日磐中校庭、古河炭礦運動場、湯本町營グラウンド二回戰の第二日は磐中と湯本決勝戰の第三日は磐中校庭に於て期日は來七月二十三日から二十五日に至る三日間であると

細民救濟のため慈善舞踊大會

東都から花柳德兵衛師を招ぎ

平社會事業助成會の後援

平町社會事業助成會では細民救濟の資を得るため來る十六日（舊端午の節句）翌十七日の日曜の兩日何れも午後四時開演で同町聚樂館に花柳德三郎師の舞踊會を後援し會費五十錢と八十錢の二種に分ける慈善演藝を催されるが當日は東都から花柳德兵衛師の助演ある外に望月左七社中（鳴物）から五名、同衣裳、かつら、顏師並びに大小道具師十名來演の筈で演技全部鳴物入りと云ふ地方としては相當大掛りな催であるが舞踊次第は左記の如くである

舌出三番叟三番花柳德三郎　千歲花柳德兵衛　小鍛治（唄と三味）松の緣（小齋よね子）菊づくし（安齋外八名）羽根の禿（藤田てる子、安齊てる子）四季の山姥（唄と三味）越後獅子（關內ますこ）道行旅路の花聟（光子）菖蒲浴衣（まり子、菊枝友子）道行旅路の花聟（光惠、てまり、ひな丸）供奴（すゞ子）賤機帶（桃子、貞丸）橋辨慶（濱壽、君枝）道成寺（小里）連獅子（花柳德三郎、同德兵衛）老松（花柳德三郎）◇翌十七日舌出三番叟から四季の山姥まで全部初日同斷、藤娘（三井まさ子）近江のお兼（その榮）淺妻船（千代丸、ぼたん）俄獅子（豆千代、貞奴）汐汲（小櫻、榮）五郎時宗（金太郎）浦島（百助）鞍馬山（お染）連獅子（花柳德三郎同德兵衛）老松（花柳德三郎）

農村產業組合

（15）　內務省社會局

これとほゞ時代を同じくし消費組合の先驅とも云ふべき共濟會が、當時の有名な文士成島柳北氏等によつて東京市に生れ、十六年には靜岡縣に製茶販賣組合、二十一年には神奈川縣に肥料の購賣組合が生れたのである

人の結合を成立の最大要件とし、また運用の不缺可條件とする產業組合が一片の法律のみを以て易々と作り上げ難いことは東西の歷史の證明するところである、數次の改正はあつたが、我が國の產業組合法は明治三十三年に發布され、今年で滿三十四年になる既に觀來つた樣に、法律の發布される前に、產業組合の基礎は久しい年月に亘つて有名無名の士の力によつて築かれつゝあつたのである、產業組合法の發布は、いはゞ駈足をしやうと身構へてゐるものに、スタートの火蓋を切つたと同樣なのである、

この火蓋を切るに與つて力あつたのが品川彌二郎と平田東助の二伯である、また明治二十二、三年の交、當時の屬外人であつたマイエット、エツゲルの兩博士が日本農業救治策として、將亦振興策として組合制度を外國から移入することの必要を强調した効績は、明治二十年交、土地の集中が起り中農が小農に、小農が賃銀勞働者に、しかも大量的に沒落するのを眺め、日本農業救治策として農業保險の實施を朝野に勸告したのもマイエット博士に外ならない

新綠日記（二）

大森勇

五月十日（綏）その年の七月私は高等學校の入學試驗に應募した。試驗は愈々明日切りになつた日その日の試驗を終へて下宿に歸つて机の前に座つた。明日の最終日は歷史の試驗であつた。當時の中學校の歷史の教科書は日本歷史は二冊東洋歷史は一冊西洋歷史は二冊で合計五冊、頁にして千餘頁あつた、時計の針の如く一秒時の休息もなく勉强して、五分間に一頁宛讀めると假定して、千頁讀むには三日半かゝる勘定になる。これでは明日の試驗に間に合はぬ。ふと平岡內務部長の訓示を思ひ出した。あせつてはならぬスローリー、バット、ステッデリーだ。今年落第したら來年受ければよい。一層のこと綺麗さつぱりと一字も一行も讀まぬことにしようと決定して、さつさと寢てしまつた。翌日試驗場に出て見たら、何と有り難いことには、問題は主に教科書外から出されてた一二の例を擧げれば、レゼツプスは當時の教科書に載つてなかつた。私は雜誌の口繪かなんかで覺えてた。朱舜水も東洋歷史の本には無論の事日本歷史の本にも載つてなかつた。私は國語の本で覺えてた試驗場に於ける受驗生は、戰爭に於ける軍人の如く、餘所の事は一切考へる餘裕を持たぬものだがあの歷史の問題を見た瞬間に平岡內務部長を思ひ出さずには居られなかつたも認めてやらねばならない

餘談に亘るが、農業保險は既に充分の調査計畫が樹立して居るにも拘はらず、未だ實施の運びに至つてゐない、明治二十年交、土地の集中が起り中農が小農に、小農が賃銀勞働者に、しかも大量的に沒落するのを眺め、日本農業救治策として農業保險の實施を朝野に勸告したのもマイエット博士に外ならない

農藝百面

品種改良の話

（三五）　農試本場　天辰生

分裂して出來た細胞の染色体の半數は父方から殘りの半數は母方から受續いでゐる樣な場合は起らないだらうか、それは實際起り得ることで父方と母方の染色体が分裂核に入つて行く割合には何等特定の法則はなく全く偶然の機會に支配されると云ふのであるから、四對の染色体が分裂する場合には父方若くは母方から由來した染色体の性質からすれば十六組の異つた生殖細胞が出來得るわけである、この事實は個を說明するかと云ふに、後にメンデル分離の法則を染色体の見地から覗いた場合に直ちにこの事實が基礎になつてゐることを發見されるのである、染色体といふものは恰も遺傳する性質（之れを遺傳因子と云ふ）を運搬することの樣なものであつて或る一つの染色体を考へてみると花の色の異つた純粹な兩親を交配して出來た第一代目の雜種が生殖細胞の成熟分裂に當つては此の染色体に關して父方から來たものと母方から來たものとの二種類の生殖細胞が出來るし、更に二つの異つた特質（例へば花の色と草丈の如き）については之れ等が夫々別個の染色体に宿つてゐる場合には之れ等二對の染色体に關し四通りの生殖細胞が出來るのである、

このことはいづれ後にメンデル法則について詳述しやうと思ふ、以上細ぼうの概念らその分裂の樣式並に染色体の性質に至るまで、是れからは入つて行かうとする雜種形成と其の分離を說明するに當り基礎となるべき重要事項は大体掲げて置いたと思ふ、尙ほ漏れた點があるかも知れないがそれ等は機會に應じて補ふことにして「生殖と遺傳」の稿は之れで終りたい。（完）

パラソルと日傘
例年御定評を頂く當店特選の
優秀な新柄を豐富に取り揃へて
ツルヤ　電一四〇

お醬油は……ヤマフル
醬油　味噌　たひら正宗　鰹節食料品
鹽屋
山崎合名會社
明治生命磐城代理店
山崎與三郎　電話　營業部一〇番　本店二七〇番

目科療診
開業
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼齒架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科、
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長　日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠
平町田町（松月堂向ひ）電話五〇九番

牛も豚も優良品の自慢
肉の御用命は　三三屋　平町田町

ガソリン　モビール油　日本石油株式會社　特約販賣
油問屋　關內油店
磐城平　電話長一六〇
支店　郡山市驛前通　電話長八二三
支店　茨城縣關本驛前　電話長平潟七三
油槽出張所　平町四丁目　郵便局前

東神火災保險株式會社
東京動產火災保險株式會社
橫濱生命保險株式會社
河田鐵工場
河田梅吉
營業所　福島縣平町七丁目　電話三二九番
本社　東京市日本橋通り三丁目　二九五番
仙臺支部　仙臺市大町三丁目
磐城代理店

債券　公債　兩替　金融
多田井質店
平町大工町　營業五九一番

自家醬油製造
諸原料（種麹菌　カラメル）大勉強
特約販賣　山野邊藥局
平町五丁目角

雨露に晒す程強く太る煙突
煙突は『朝日』
石綿セメント製
朝日煙突
絕對にはぜあい！やけあい！くさらあい！
經濟的で美觀の心配なしあい
㊫釜屋商店

新設、電話二二二番
何卒御利用の程を……
平町紺屋町一一
上原家政婦會
（產婆）上原通子

石炭　コークス　豆炭
平町郵便局通り
水野石炭店
電話二九九番

店主が店員を連れて行かれる正しい食堂
正しい喫茶
正しい酒場
平田町　レストランサロン　電三六二

磐城名產特賣所
御土產物には鄕
石城みやげ
七濱の生產品
地元產の果實
平みやげ
名菓各種
土の名產が第一
平町驛前

紺屋町　平町
藤沼醫院
電話五〇七番